様式２　管理運営状況評価書
【対象年度：平成24年度】　（　　②福祉施設　　）

１　施設概要・利用情報　　（単位：人、％、円、日）

番号	9	施設名	掛川市総合福祉センター	担当課名	福祉課

区分		内容　・　説明	
１　施設及び指定管理者の状況	(1)設置条例名	掛川市総合福祉センター条例	
	(2)施設設置目的	市民の健康増進及び福祉の向上を図ることを目的とする。	
	(3)施設が有する設備、機能の概要	福祉活動館（974.72㎡　体育館）、本館（1,883.04㎡　1F　シルバー人材センター・心身障害児学童保育所かざぐるま、2F　社会福祉協議会・共用会議室、3F　掛川児童交流館・ことばの教室）、東館（342.90㎡　1F　心配ごと結婚相談室、2F　社会福祉協議会障害福祉部門）、多目的広場（8,040.00㎡）、南広場（1,836.70㎡）、駐車場（6,750.00㎡　駐車台数231台・身障者用駐車台数11台）	
	(4)施設建設年度	平成20年度	
	(5)耐震性能の有無	有り	
	(6)将来予想される改修経費（想定年度と費用見込み）	各館の修繕工事	
	(7)指定管理者名	（公社）掛川市シルバー人材センター	
	(8)指定期間	平成20年10月1日　から　平成25年9月30日　まで	
	(9)施設の管理運営形態	①指定管理料のみによる運営	
	(10)自主事業の有無	☐ 実施あり　☑ 実施なし　※実施ありの場合は、収支状況を３－(3)欄に記入のこと。	
	(11)指定事業の有無	☐ 実施あり　☑ 実施なし　※実施ありの場合は、収支状況を３－(3)欄に記入のこと。	
	(12)事業報告書提出の有無	☑ 提出あり（地自法第244条の2第7項による提出義務）　☐ 提出なし	
	(13)利用者満足度調査等実施の有無	☑ 実施あり　☐ 実施なし　※実施ありの場合、（直近の実施年度　平成　24　年度）	

区分				H22実績	H23実績	H24実績	H25当初	備考
2 利用状況	(1)施設利用者数			23,534	26,213	28,885		
	（施設・設備ごと）	福祉活動館		15,404	18,867	20,295		
		多目的広場		8,130	7,346	8,590		
	(2)稼働率（利用率）							↓備考欄に算定式を記入してください↓
	（施設・設備ごと）	福祉活動館	A平日昼間			114.2%		441面÷（2面×193日）=114.0%
			B平日夜間			80.6%		311面÷（2面×193日）=80.6%
			C土日祝昼間			106.6%		241面÷（2面×113日）=106.6%
			D土日祝夜間			54.4%		123面÷（2面×113日）=54.4%
		多目的広場	A平日昼間			66.3%		128団体÷193日=66.3%
			B平日夜間			－		
			C土日祝昼間			119.5%		135団体÷113日=119.5%
			D土日祝夜間			－		
			A平日昼間					
			B平日夜間					
			C土日祝昼間					
			D土日祝夜間					

区分			H22実績	H23実績	H24実績	H25当初	備考
3 管理・運営状況	(1)指定管理者名						※1-(7) 現在の指定管理者と異なる年度のみ記入
	(2)利用者一人当たりの運営経費		179	133	140		
	(3)運営日数		306	308	306	305	
	(4)運営人員	①正規職員	1.0	1.0	1.0	1.0	※指定管理者の組織構成員全体の人数ではなく、当該指定管理施設で働いている実人数を記入してください。
		②臨時職員	4.0	4.0	4.0	4.0	

2 施設管理に係るコスト情報

（単位：円、%）

区分		H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25当初予算額	備考
(1)運営コスト（A）	①人件費	2,971,517	2,626,855	2,663,532	1,253,000	H25年度は9月30日まで
	②印刷費	31,080	104,580	52,552	1,000	
	③通信費	30,000	26,717	4,934	1,000	
	④事務用品、旅費、図書費など	563,129	320,913	563,461	215,000	
	⑤借上料	444,150	238,297	350,200	242,000	
	⑥保険料、消費税（租税公課）等	168,450	178,450	411,450	203,904	
	⑦その他(支払手数料、広告宣伝費、一般管理費、雑費)	7,710	0	0	0	
	計	4,216,036	3,495,812	4,046,129	1,915,904	
	対前年度増減率		△ 17.1	15.7	△ 52.6	
区分		H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25当初予算額	備考
(2)施設コスト（B）	①管理委託費(外注費)	169,705	172,645	164,455	32,000	
	消防設備保守点検	73,500	73,500	73,500	32,000	
	浄化槽保守点検	90,955	90,955	90,955	0	
	清掃器具洗浄	5,250	8,190	0	0	

区分		H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25当初予算額	備考
(2)施設コスト(B)	②修繕費	1,132,761	1,005,399	759,328	300,000	
	③光熱水費	529,514	703,623	616,655	300,000	
	④燃料費	0	0	0	0	
	⑤清掃費	2,293,091	2,414,374	2,338,875	1,292,000	
	⑥保守点検費	0	0	0	0	
	⑦その他(施設消耗品)	308,893	446,147	15,558	22,096	
	計	4,433,964	4,742,188	3,894,871	1,946,096	
	対前年度増減率		7.0	△ 17.9	△ 50.0	
(3)トータルコスト(施設管理費　合計)　(A)＋(B)		8,650,000	8,238,000	7,941,000	3,862,000	
(4)合計のうち運営コストの割合		48.7	42.4	51.0	49.6	
(5)施設の収入　※1)下記3に入力する		483,100	487,950	435,050		
(6)運営コストのうち利用料収入の割合		11.5	14.0	10.8		

３　収支差額の状況　　注)【指定管理料施設は(1)欄に、利用料金制度又は両制度併用施設は(2)欄に記入。また、自主事業を実施している施設は(3)欄に記入】

(1)指定管理料のみで運営している施設　　(単位:円)

区分	H22決算額	H23決算額	H24決算額	備考
a) 施設使用料収入	483,100	487,950	435,050	※施設使用料は、掛川市へ収入される
b) 指定管理料	8,650,000	8,238,000	7,941,000	
収支差額　a)－b)	△ 8,166,900	△ 7,750,050	△ 7,505,950	

(2)利用料金制度施設又は指定管理料・利用料金併用制度施設　（単位：円）

区分	H22決算額	H23決算額	H24決算額	備考
a) 施設利用料金収入	0	0	0	※施設利用料金は、指定管理者へ収入される
b) 収支差額（　a－トータルコスト）	0	0	0	
c)　bに対する市の支出額（指定管理料）	0	0	0	

(3指定事業及び)自主事業の状況　（単位：円）

区分	H22決算額	H23決算額	H24決算額	備考
a) 指定事業の収入	0	0	0	
b) 指定事業の支出	0	0	0	
収支差額　a）－b）	0	0	0	
c) 自主事業の収入	0	0	0	
d) 自主事業の支出	0	0	0	
収支差額　c）－d）	0	0	0	

４　施設管理所管課（市担当者）としての見解と改善提案

検討項目	現状分析と課題	左記課題を解決するための改善提案（いつから、誰が、何を、どうする）
(1)　施設の収支差額の改善について 【行革推進係から】 いくら公の施設とはいえ、毎年巨額の収支差額を生じ、不足分を市民の税金で賄うことが果たして適正な経営といえるのでしょうか？ 知恵と工夫により、少しでも収支バランスを改善することを念頭に、類似施設の統廃合も含めて、施設運営のあり方を考えましょう。	H24年度、福祉活動館の利用団体のうち47.4%、多目的広場の利用団体のうち89.7%が使用料免除であった。有料だった場合、概算で67万円の収入となる。 施設運営費は、運営上必要最低限の内容であり、指定管理者において努力がなされている状況である。	使用料は、市民の健康増進及び福祉の向上を図るという当施設の設置目的に照らし、高齢者・障害者の支援や児童・生徒の健全育成に関わる使用の際は減免している。広く市民に使用してもらい、その目的を達成することが第一であり、減免制度の継続は必要と考えている。 一方で施設運営費は、指定管理者に、より一層の効率的運営を求めていく。併せて当施設は学校の跡地利用であるため、今後大小問わず各所に修繕が必要となることも考えられるが、指定管理者には、日々の目視・管理体制を強化し、その費用の膨張する前の対応を指導したい。

⑵　利用者数の増加について 【行革推進係から】 一部の人しか使わない割りに、毎年たくさんの指定管理料が支払われていませんか？ より多くの利用者を獲得するために、市としてどんな事業展開を考えますか？	利用者数は、 H22年度：前年度比　45%増 H23年度：前年度比　11%増 H24年度：前年度比　10%増 と、毎年増加している。 利用者層は、少年野球や小中学校バレーボールなどの子どもから、高齢者の趣味・体力づくり、障害者の利用まで幅広い世代の利用がある。	今後も更なる利用者数増加を目指し、 ①施設のPRにより、新規団体利用の発掘 ②心地良く利用してもらえるよう、指定管理者の接遇や施設管理の向上 ③不用意及び直前のキャンセルによる利用率低下を防ぐための使用者モラルの向上 を図る。
⑶　利用者の満足度向上について 【行革推進係から】 市の政策目的の達成に見合う事業が行われているでしょうか？ 毎年決まった事業内容やイベント等でなく、利用者の関心を引きつけ、魅力ある施設運営をめざしましょう。	利用者数が年々増加していることから、満足度が高いことが考えられる。しかし、選択余地がないことから利用している団体があることも考えられるため、積極的な選択使用に結びつくように、利用者満足度調査を今後も引き続き行い、意見集約・改善を行っていくべきと考える。	H25年度においても、指定管理者による利用者満足度調査を行い、改善・反映可能な意見については検討する。併せて指定管理者の接遇向上・適正な施設管理に努め、満足度の向上に努める。

５　その他自由意見